



東アジア小地域オンライン APASWE シンポジウム(世界ソーシャルワーク月間企画)
新グローバルアジェンダにおける社会連帯と東アジアにおけるコロナ禍
— ソーシャルワーク教育に何ができるのか —

日時

2021年3月26日(金)、北京時間14時・ソウル及び東京時間15時

プログラム (2時間)

開会挨拶と導入説明 (10分)

- ・デイビッド ローズ (メルボルン大学・APASWE 事務局長)

※ 全て英語

シンポジウム概要と趣旨説明 (10分)

- ・ヴィラーグ ヴィクトル (長崎国際大学・APASWE 理事)

各国報告 (アルファベット順)

- 中国 (20分) 沈 黎 (上海師範大学)
- 日本 (20分) 和気 純子 (東京都立大学)
- 韓国 (20分) イム ジョンウォン (江南大学)

ディスカッションと質疑応答 (30分)

- ・モデレーター: 藤岡 孝志 (日本社会事業大学・APASWE 会計担当理事)
 ヴィラーグ ヴィクトル (長崎国際大学・APASWE 理事)

総括コメントと閉会挨拶 (10分)

- ・ズルカルナイン ハタ (リンカン大学カレッジ・APASWE 会長)

登録 3月24日(水) 東京時間深夜24時まで

<https://forms.gle/EQNKgbLJp5BPWwSs8>

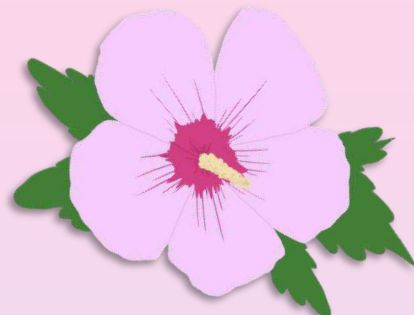
※ 2021年3月25日(木) までメールを通じて Zoom のリンクをお知らせします。

コーディネーター及びお問い合わせ

virag@niu.ac.jp ヴィラーグ ヴィクトル (長崎国際大学・APASWE 理事)

特別協力

- ・一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟
- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究 (B) 「多文化共生ケアシステムにおけるグローバルソーシャルワークの理論的・実証的研究」 (19H01590)



社会的な連帯とグローバルなつながりの強化

世界ソーシャルワークデー

#WSWD2021



APASWE アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟
Asian and Pacific Association for Social Work Education



東アジア小地域オンライン APASWE シンポジウム(世界ソーシャルワーク月間企画)
新グローバルアジェンダにおける社会連帯と東アジアにおけるコロナ禍
— ソーシャルワーク教育に何ができるのか —

日時

2021年3月26日(金)、北京時間14時・ソウル及び東京時間15時

特別協力

- ・一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟
- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(B)「多文化共生ケアシステムにおけるグローバルソーシャルワークの理論的・実証的研究」(19H01590)

開会挨拶と導入説明

デイビッド ローズ

メルボルン大学

APASWE事務局長

シンポジウム概要と趣旨説明

ヴィラーグ ヴィクトル

長崎国際大学

APASWE理事

ソーシャルワークと社会開発のグローバル・アジェンダ

- 3つの専門的なグローバル団体のアドボカシーと行動のための主要なプラットフォーム
 - 国際ソーシャルワーク学校連携 (IASSW) ➡ APASWEのグローバルなパートナー団体
 - 国際社会福祉協議会 (ICSW)
 - 国際ソーシャルワーカー連盟 (IFSW)
- 実践者及び教育者が、社会的、経済的、政治的、環境的な分野における優先事項について、団結、推進し、意見を述べ、明確化を図り、合意するためのまたとない機会を提供



2010-2020年のグローバル・アジェンダの4本の柱

- 社会的及び経済的平等
- 人々の尊厳と価値
- 持続可能なコミュニティ及び環境
- 人間関係の重要性



2020-2030年のグローバル・アジェンダ 枠組み 包摂的な社会変容の共同構築

- 新しい枠組みは、全ての人々の強みの称賛と持続可能な開発をリードするために彼らの積極的な役割の促進の必要性を認識し、コミット
- 全ての人々の声の傾聴と、特に疎外されやすい人々の積極的な参加を促進
- 各国でもグローバルにも、全ての人々の普遍的な権利、機会、自由、そして持続可能な幸福を促進するよう、政府と人々の間に新しい社会的合意の形成も念頭に

2020-2022年の第一期のテーマ

ウブントウ: 社会連帯とグローバルなつながりの強化

- 社会連帯を強化し、グローバルなつながりを認識するための原則は、全ての人々と環境の間にある責任を強調し、共有された持続可能な未来のための根幹
- 新しい社会的合意を形成する包摂的なプロセスを促進するための基盤
- 「ウブントウ: 我々が存在する」はアフリカの概念で、ネルソン・マンデラによって世界中に普及
 - 全ての人々と彼らを取り巻く環境の相互関係という専門的な視点を表現
 - 地域・民族固有の知を強調



背景(1)

- コロナ禍がグローバルな相互関係の現実と社会連帯の価値を浮き彫りに
- コロナ禍の影響と教訓のみでなく、経済的・社会的不平の長年にわたる現実、また社会保障の失敗と続く社会的不正義を認識する必要
- 人権、平等、社会正義を尊重する社会組織の新しい在り方が必要

背景(2)

- 家族などの小集団レベルでの有機的な連帯とグローバルな多層的連帯が全ての人々の健康、安全、ウェルビーイングの保障に不可欠
- グローバル・リージョナル・ナショナル組織は、全てのレベルであらゆる形態の連帯について言及し、明確化し、概念化し、実践するために協働していくことが重要
- 連帯は、例えば家族や友人関係のような小集団における基本的な人間的連帯から、地域期間や専門職団体の組織的連帯まで様々な理解が可能

連帯の捉え方の例(1)

- **グローバルな連帯**は、コロナ禍と向き合い、**多国間主義と平和構築の重要性**に焦点をおいて**経済を再建する集団的な責任**について指摘
- **地域社会の連帯と国家の役割**は、**経済的・健康的・福祉的な安全へのアクセスを確保するための社会保障メカニズム**について提示
- **技術と知識の連帯**は、現代社会において**社会正義に知識的正義も欠かせない**ため、**知識と技術へのアクセスを保障するための知識の共有と技術的支援**を意味

連帯の捉え方の例(2)

- **世代間の連帯**は、特に地球の物的資源を含めて、資源の平等な世代間配分として解釈(環境的正義と同意味)
- **地域社会の連帯**において**全ての人々の尊重**では、共有された脆弱性に対処し、必人種差別、スティグマ化、孤立、差別に対して社会部門が人権尊重の促進と仲介によって挑戦することが期待
- 連帯に対して**その他の捉え方も可能**

本日のテーマと目的

新グローバルアジェンダにおける社会連帯と東アジアにおけるコロナ禍：ソーシャルワーク教育に何ができるのか

- 答えを探る4つの問い：
 - 東アジア(日中韓)では「社会連帯」をどのように捉えるか。
 - 東アジア(日中韓)では「社会連帯」を妨げる要因はどのようなものがあるか(従来から一般的に、また特に現在のコロナ禍において)。
 - これらの要因を克服し、「社会連帯」を促すために、ソーシャルワークの教育者(及び学生)の役割(及び行動)はどのようなものが考えられるか。
 - コロナ禍による制限の下で、ソーシャルワーク教育はどのようにすれば「社会連帯」について教え、促すことができるか。
- 3各国報告(各20分)後にディスカッションと質疑応答(30分)

参考文献

- IASSW, ICSW & IFSW (2020) *Press Release – Global Agenda for Social Work and Social Development*, International Association of Schools of Social Work, International Council for Social Welfare & International Federation of Social Workers.
- IASSW, ICSW & IFSW (2020) *Strengthening the Global Agenda 2020-2030 during the Global Pandemic Crisis and Beyond: Revised Global Consultation*, International Association of Schools of Social Work, International Council for Social Welfare & International Federation of Social Workers.

韓国報告

イム ジョンウォン

江南大学

イム・ジョンウォン博士は、江南大学社会福祉学部の教授である。また、同大学未来福祉集中研究所の所長であり、韓国精神腫瘍学会の執行理事でもある。以前、ケース・ウェスタン・リザーブ大学で助教として勤務し、シティ・オブ・ホープ国立医療センターでリサーチ・フェローを務めた。研究テーマは、がんサバイバーシップと福祉テクノロジーである。

日本報告

和気 純子

東京都立大学

和気純子博士は、東京都立大学の教授である。日本ソーシャルワーク教育学校連盟の副会長で、IASSWの理事会において日本代表を努めている。また、日本社会福祉学会の副会長と日本ソーシャルワーク学会の理事でもある。関心分野は、高齢者ソーシャルワークと国際ソーシャルワークである。

中国報告

沈 黎

上海師範大学

沈黎博士は、上海師範大学の准教授で、ソーシャルワーク修士課程の主任である。また、中国ソーシャルワーク教育連盟においてスーパービジョン委員会の副委員長兼事務局長、また上海ソーシャルワーカー協会倫理委員会の委員長を務めている。研究テーマは、ソーシャルワークにおける倫理とスーパービジョンである。

ディスカッションと質疑応答

藤岡 孝志

日本社会事業大学

APASWE会計担当理事

ヴィラーグ ヴィクトル

長崎国際大学

APASWE理事

本セミナーの4つの課題



- 東アジア(日中韓)では「社会連帯」をどのように捉えるか。
- 東アジア(日中韓)では「社会連帯」を妨げる要因はどのようなものがあるか(従来から一般的に、また特に現在のコロナ禍において)。
- これらの要因を克服し、「社会連帯」を促すために、ソーシャルワークの教育者(及び学生)の役割(及び行動)はどのようなものが考えられるか。
- コロナ禍による制限の下で、ソーシャルワーク教育はどのようにすれば「社会連帯」について教え、促すことができるか。

総括コメントと閉会挨拶

ズルカルナイン ハタ

リンカン大学カレッジ


APASWE会長



コロナ禍及びその後の時代における 社会福祉の対応と役割

- 新しい常態と福祉テクノロジー

イム ジョンウォン
江南大学社会福祉学部教授



内容

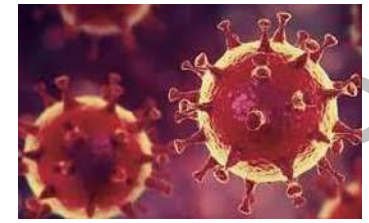
- ▶ コロナ後の新しい常態
- ▶ コロナ禍の時代と社会福祉分野
- ▶ 福祉テクノロジーによる社会福祉サービスのイノベーション
- ▶ 社会福祉における福祉テクノロジーの役割

韓国における社会連帯とは

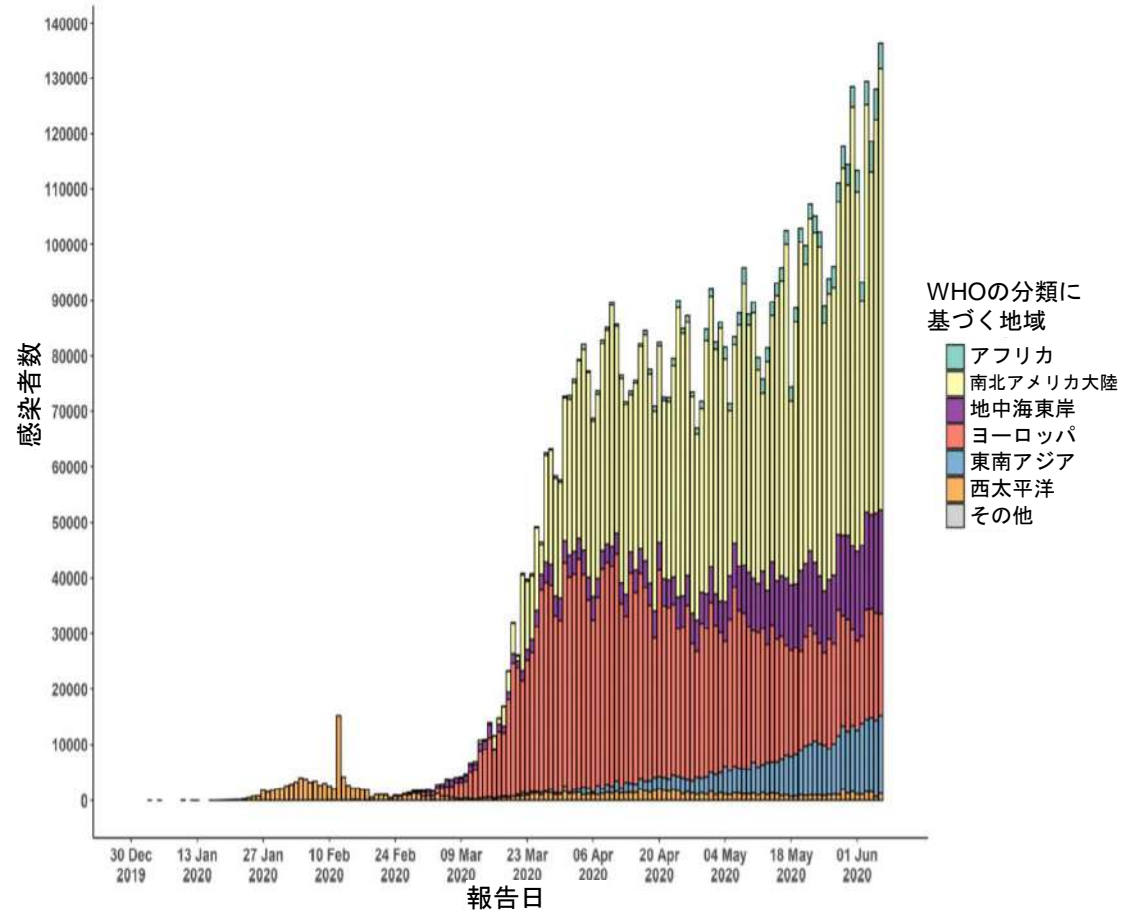
- ▶ 福祉国家とは、国が全ての人々の生活の質に責任をもつ国家
- ▶ 福祉国家の中心に社会連帯が存在
 - ▶ 人々の尊重
 - ▶ 人々の尊厳
- ▶ 福祉国家の実現には、原理と全ての人々の価値に関するパラダイム転換が必要
 - ▶ 社会連帯があれば可能



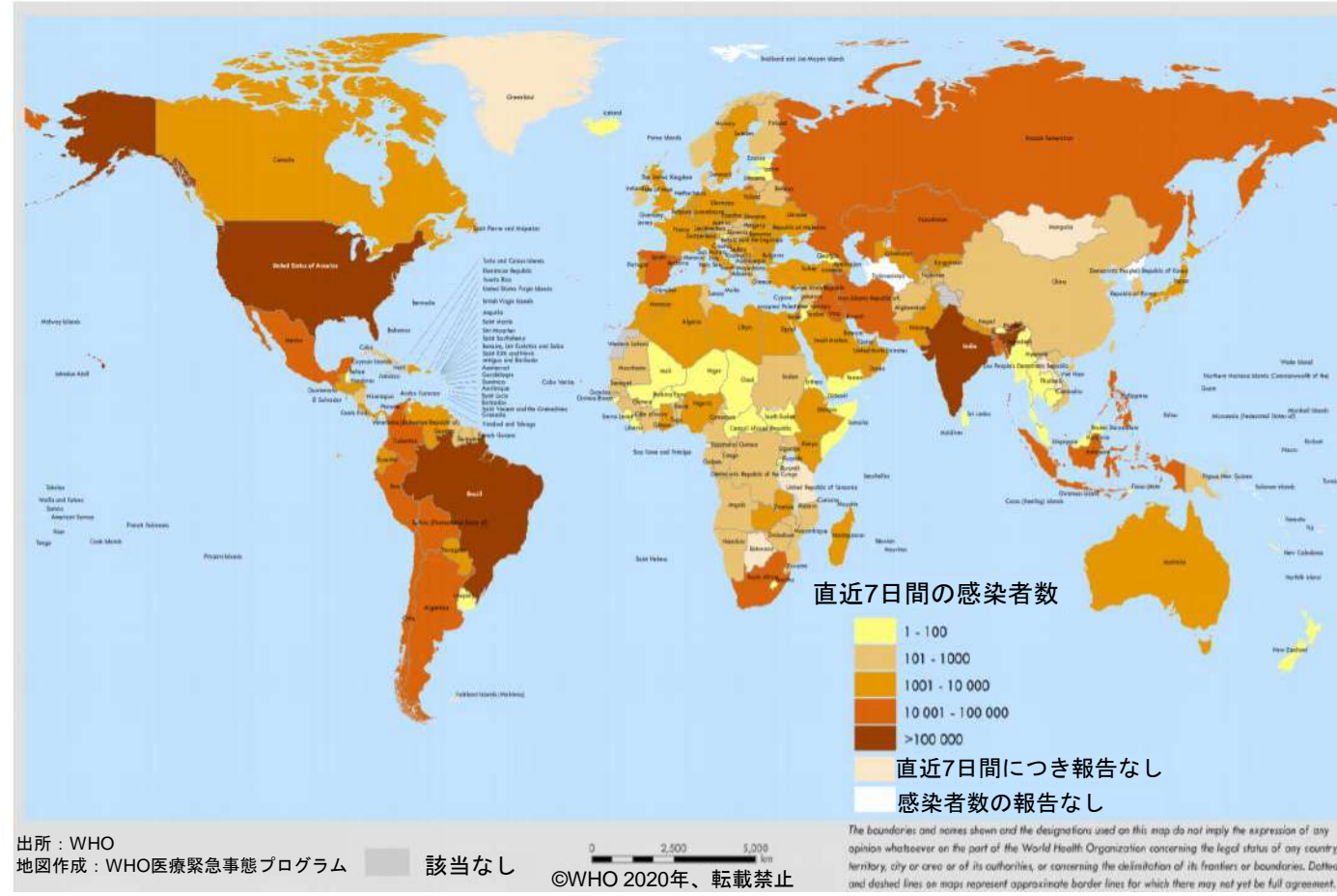
コロナ禍



図表2：COVID-19感染者数（報告日・地域別、2019年12月30日～2020年6月7日）



図表2：直近7日間（8月4日～10日）のCOVID-19感染者数（国・領土・地域別）



コロナ後の新しい常態の時代

新しい常態：通常とは異なるが、長期的な影響が見込まれ、今後はそれが基準となる状況・行動・状態

■ 非接触型・オンラインサービスの加速

- コロナ後は、従来の接触型サービスから非接触型サービスへの移行により、オンライン化
- ICTの活用による個別化・デジタル化

■ 脱グローバル化による自国中心型のエコシステムの構築

- 国際的な分業を活用する効率性に価値をおく考え方から、災害から自国を守るための供給安定に価値をおく考え方への移行

新しい常態の時代の拡大産業 1

- オンラインサービスと配送業の拡大
 - ICTとAI技術を活用した非接触型サービスの普及
- ICTを活用したデジタルコンテンツ産業の拡大
 - オンライン動画配信サービス産業の成長
 - 個室で映画やドラマなどのコンテンツを楽しめるオンライン・ストリーミング・プラットフォームの優先
- 遠隔治療の拡大とスマート医療サービスの成長
 - 遠隔治療という非接触型サービスの活用が本格化
 - 医療産業パラダイムは、治療中心型から予防・診断中心型への移行が可能
 - ARやVRなどのスマート医療産業が成長

新しい常態の時代の拡大産業 2

■ 教育テクノロジーとテレビ会議関連産業の急成長

- AI、AR、VR、IoTなどのEラーニングツールを積極的に活用し、効果的な教育コンテンツの確保
- テレビ会議



コロナ禍は社会連帯に影響を与えたか？

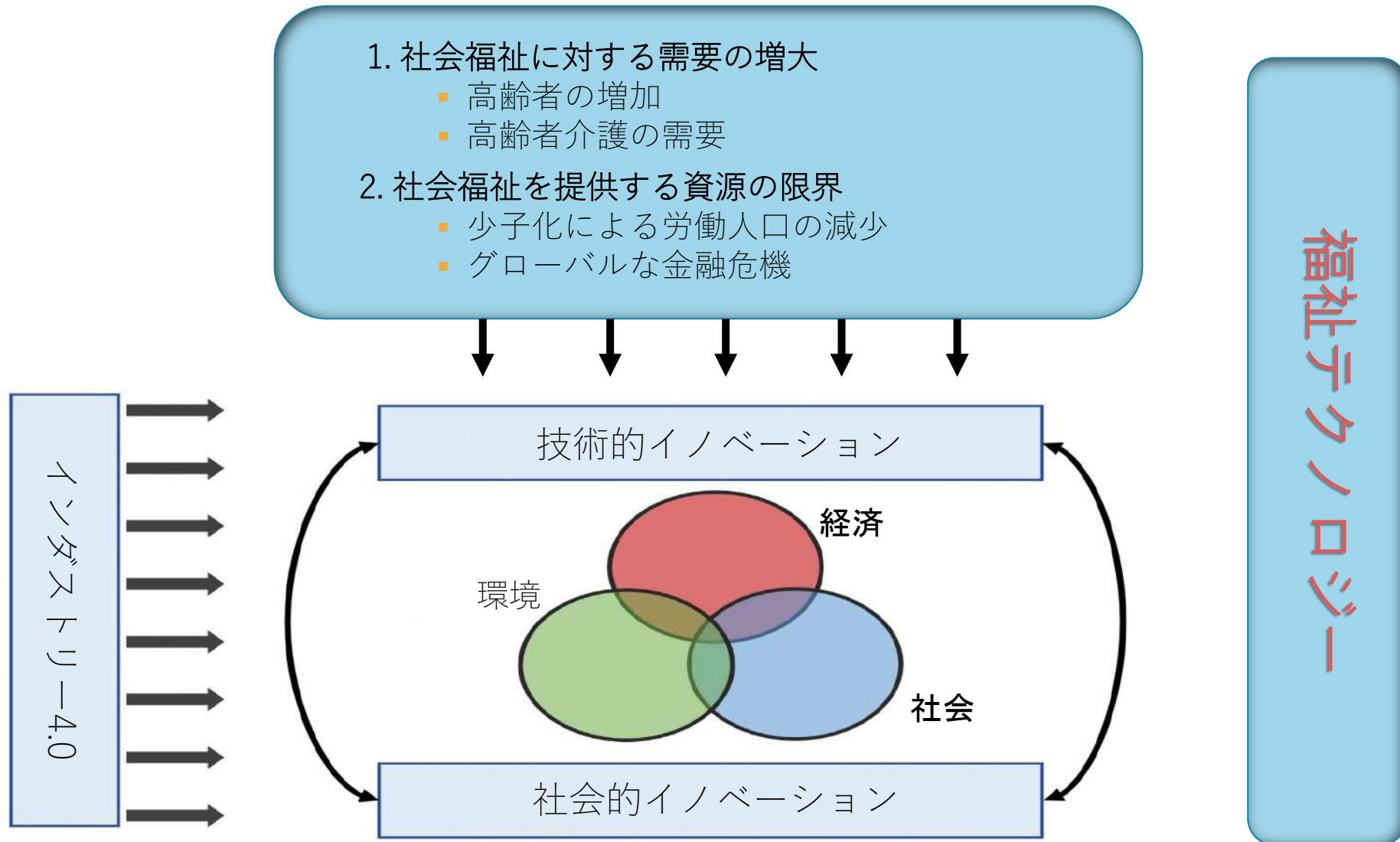
○ ○ ○ コロナ禍においてソーシャルワーク分野 ○ ○ ○ の効率性の阻害要因

- クライアントに対する直接・接触サービスであることに起因するサービスの非効率性
- クライアントの参加を推進するサービスシステムの利用が不十分
 - ソーシャルワークに関連する情報の入手しにくさ
 - サービス提供者側重視の情報・サービス提供
- 膨大な事務作業によるサービス格差の発生

新しい常態の時代に適応するための条件

1. コロナ禍の予測可能性・継続性について理解が不十分な状況下で、サービスを停止ではなく、プランBの策定
 - ▶ いかに社会連帯を推進することができるか？その方法は？
2. 非接触型サービスとデジタル能力の向上
 - ▶ 社会福祉分野においてデジタル能力の強化
 - ▶ 社会連帯の推進を図るスキル・教育の開発
3. 大規模施設から小規模施設への転換
 - ▶ 強固なネットワークを基盤とする小規模コミュニティシステムの構築
 - ▶ 小さくても強いコミュニティ能力の強化

社会の変化と福祉テクノロジー



福祉テクノロジーとは

出発点：多様な技術的な解決策

人口動態的・社会的・グローバルな課題

特殊な技術



複雑な社会問題

技術的イノベーション

社会的イノベーション

福祉テクノロジー

今後の韓国社会において予想される急激な変化（超高齢社会、根本的な技術転換など）の中での生きにくさを最小化するために、通信・ネットワーク化にICTを活用するよう福祉サービスのイノベーション

コロナ後の福祉テクノロジー

- ▶ 非接触ツールを活用し、個別的・統合的サービスを提供するためのスキル
 - ▶ 心身両面の健康をモニタリングすることにより、社会福祉サービスを利用するクライアントへの事前対応
 - ▶ オンライン緊急・社会福祉情報を提供することにより、多様な福祉サービスの提供
 - ▶ 自ら解決し、自身のニーズと状況を考慮して適切な社会福祉サービスを選択できるクライアントの能力向上によってQOLの上昇
 - ▶ コミュニティにおいてクライアント同士を結び付けるサービスを調整することにより、社会問題の解決に役立つより多くの機会の提供

コロナ後の福祉テクノロジー

- ▶ クライアントの問題を解決する福祉プラットフォームの確立
 - ▶ 福祉プラットフォームを活用してクライアントのニーズを聴取し、関連情報を分析することにより、サービス提供の基盤を整える
- ▶ リビングラボを活用してサービス効果の検証
 - ▶ サービス提供者・利用者が共に参加することにより、スマートなシステムとプラットフォームを開発する必要と社会連帯の強化



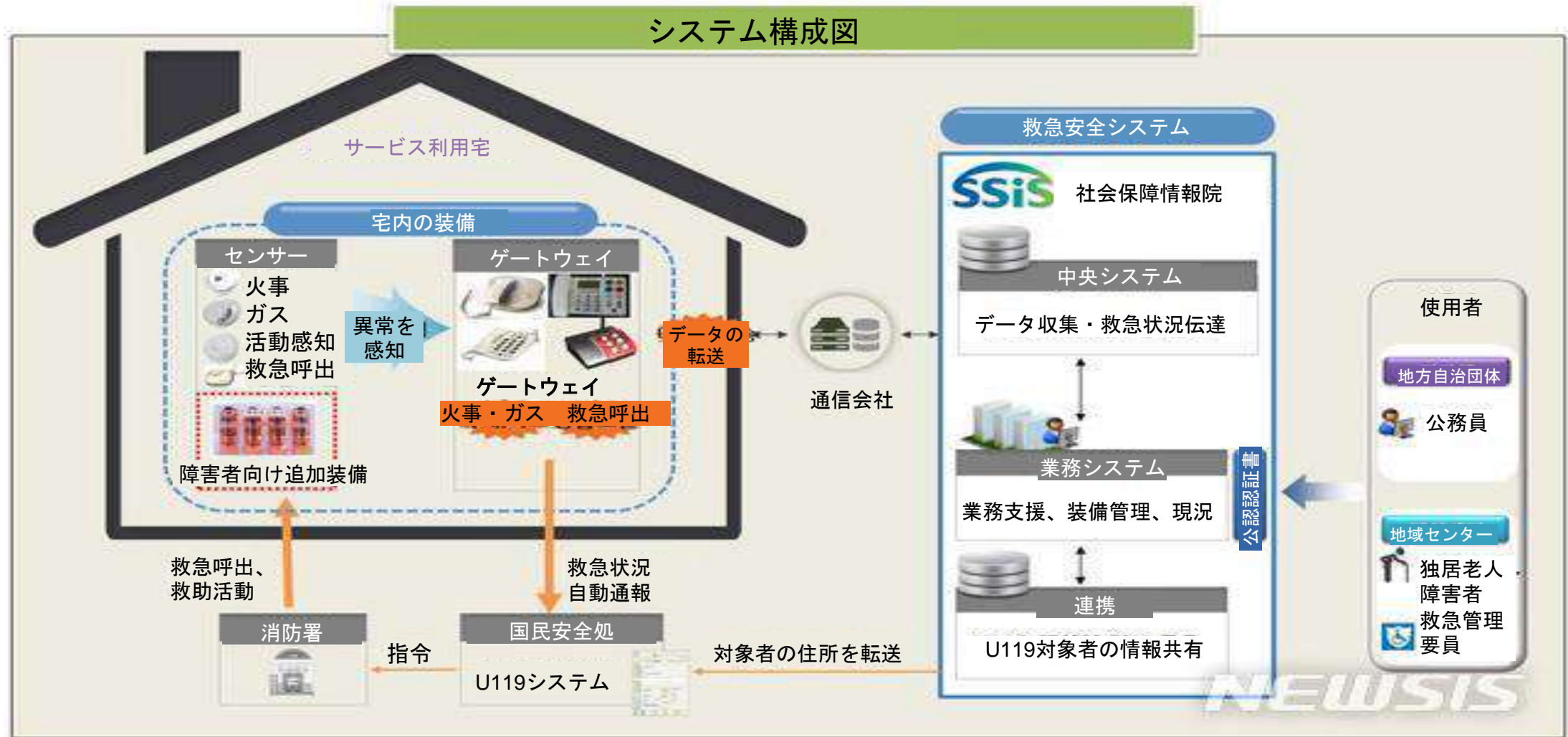
社会福祉分野における福祉テクノロジー：今と今後



一人暮らし高齢者のための 緊急・安全警報サービス



システム構成図



メンタルヘルス・認知症予防プログラム ○ ○ ○

精神健康テスト、認知症編&ストレス編&うつ症



- 時間の見当識 (5点)
- 場所の見当識 (5点) → **見当識 総点10点**
- 記憶力 (6点)
- 計算力 (5点) → **記憶及び計算能力 総点11点**
- 名前合わせ (2点)
- 真似しておしゃべり (1点)
- 実行能力 (3点)
- 構成能力 (1点) → **理解及び判断能力 総点9点**
- 読み能力 (1点)
- 理解判断 (1点)s

総点30点



精神健康テスト(メンタルヘルステスト)とエンブレン(Enbrain)は個人向け又は機関向け製品で提供されます。機関向け製品の場合、ウェブで利用できます。



認知リハビリテーションプログラム エンブレン-アプリ・タブレット・PCバージョン/B2B, B2C



VRコンテンツの活用

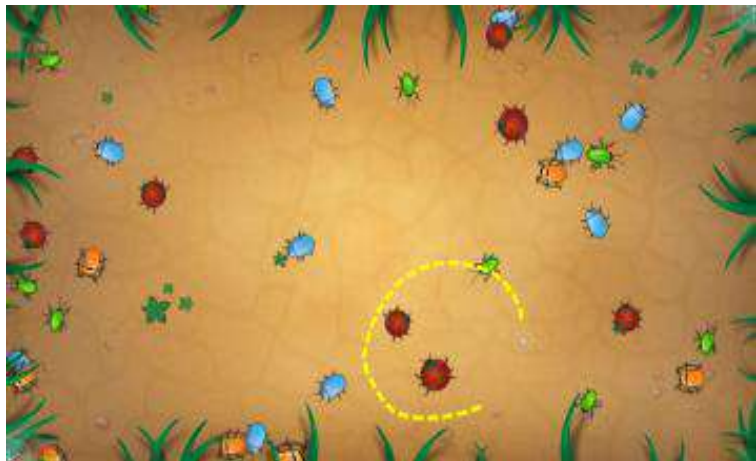


認知症の高齢者

認知リハビリテーションを必要とする人

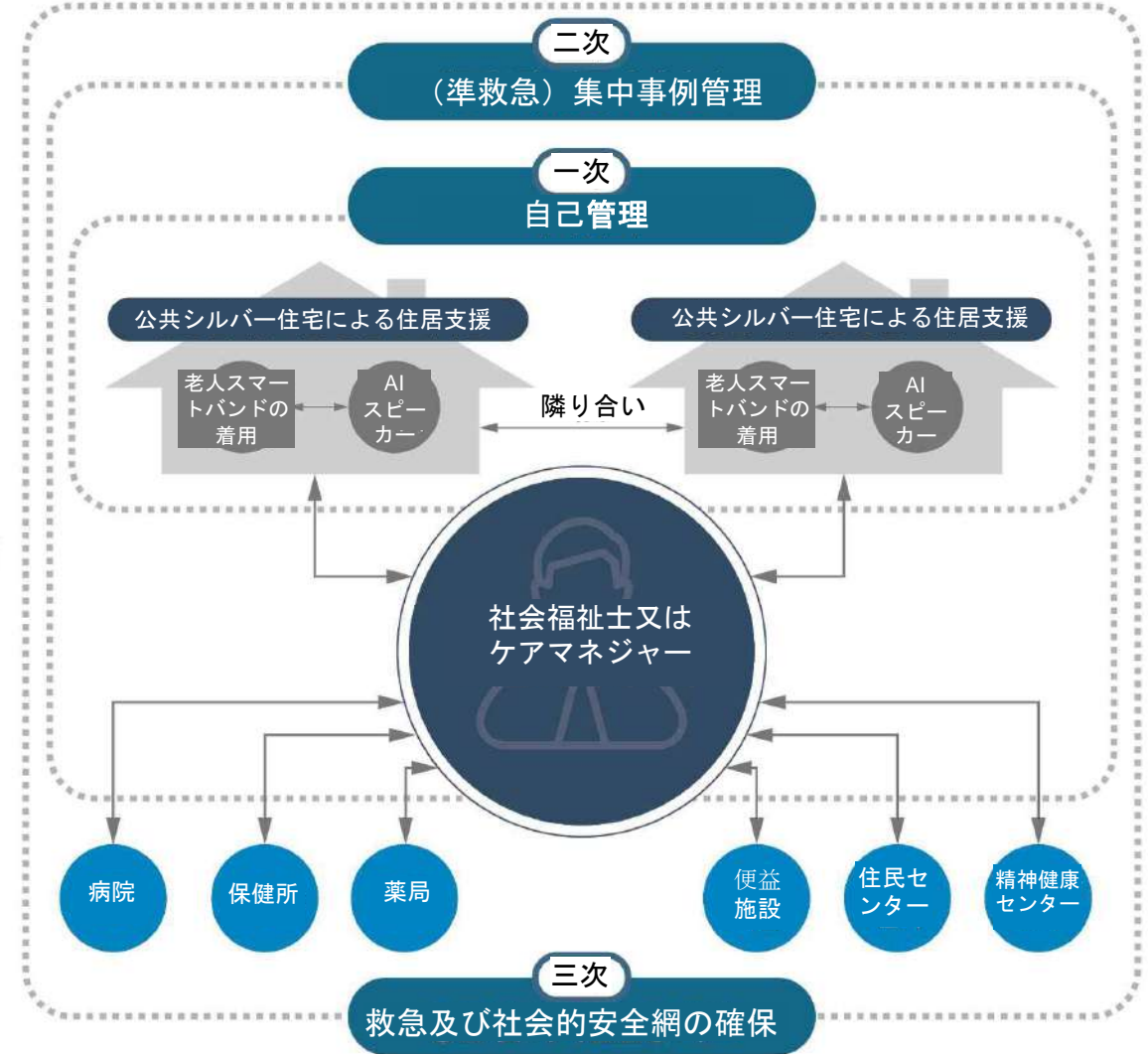
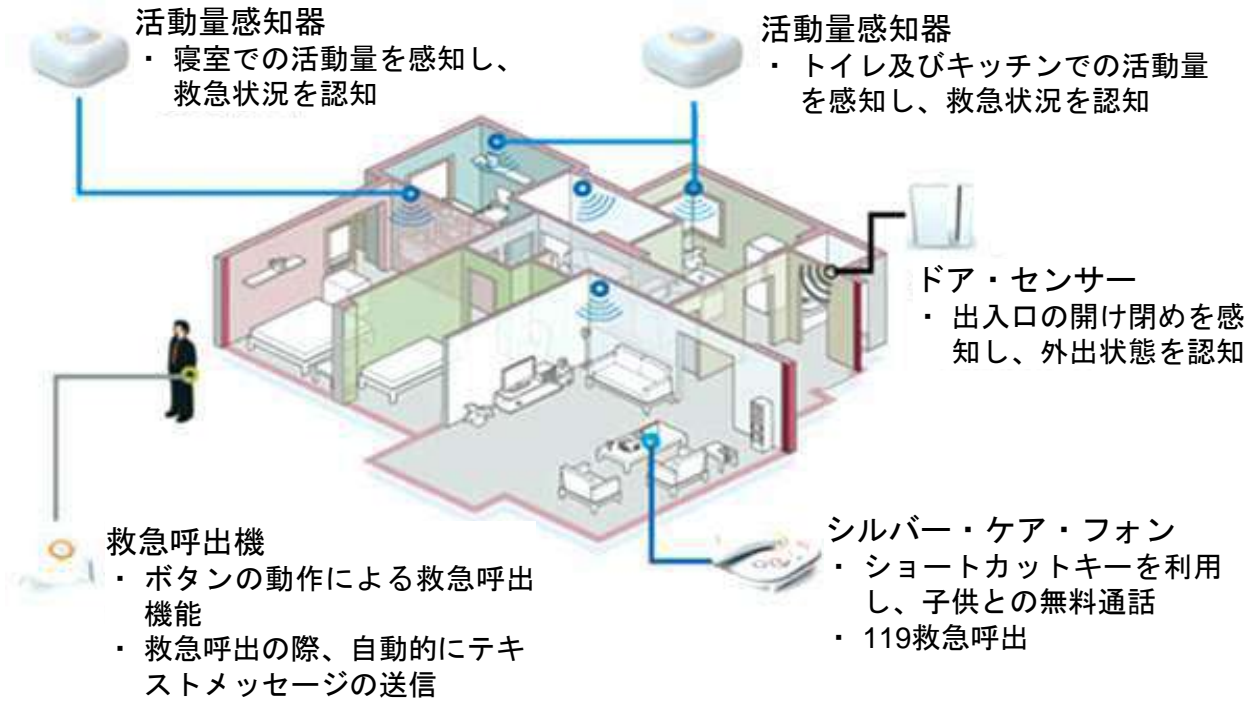


マジック・ハッピーテーブル



福祉テクノロジーを基盤とした コミュニティケア・モデル

サービスシステム



福祉テクノロジーのリビングラボ

官



産



学



- 高齢者の認知機能を維持するために福祉テクノロジーの活用
- 産学官の連携システム

コロナ後の時代における社会福祉の課題

- ▶ 福祉テクノロジーを活用し、社会福祉の死角を発見するための事前対応
- ▶ 福祉テクノロジーを活用し、社会福祉サービスのイノベーション
- ▶ 非効果的・非効率的なサービス提供システムの変革
- ▶ コロナ禍からの回復に向けてオンライン共有型文化活動
- ▶ オンライン及びオフラインの教育プログラムの開発・普及
- ▶ 社会福祉事期間においてモニタリング・危機管理支援システムの構築
- ▶ 社会連帯を促す提供者・利用者間の協働システムの構築

ありがとうございました。



新グローバル・アジェンダにおける 「社会的連帯」と東アジアにおけるコロナ禍： 日本の場合

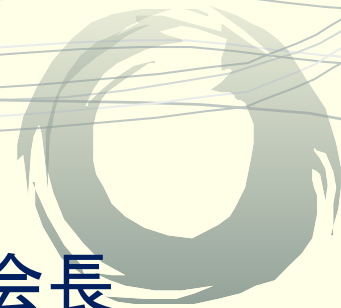
ーソーシャルワーク教育に何ができるのかー

和気 純子

東京都立大学

日本ソーシャルワーク教育学校連盟副会長

国際ソーシャルワーク学校連盟日本代表理事



日本におけるソーシャルワークの背景

- 欧米のソーシャルワークを日本固有の文化や制度に統合
- 経済発展と行動な科学技術を達成
- 人口学的変化: 急激な少子高齢化
- 増大する社会的孤立と不平等
- 頻発する災害や環境破壊

ソーシャルワーク専門職のグローバル定義の日本における展開（2016）

日本におけるソーシャルワークは、独自の文化や制度に欧米から学んだソーシャルワークを融合させて発展している。現在の日本の社会は、高度な科学技術を有し、めざましい経済発展を遂げた一方で、世界に先駆けて少子高齢社会を経験し、個人・家族から政治・経済にいたる多様な課題に向き合っている。また日本に暮らす人々は、伝統的に自然環境との調和を志向してきたが、多発する自然災害や環境破壊へのさらなる対応が求められている。

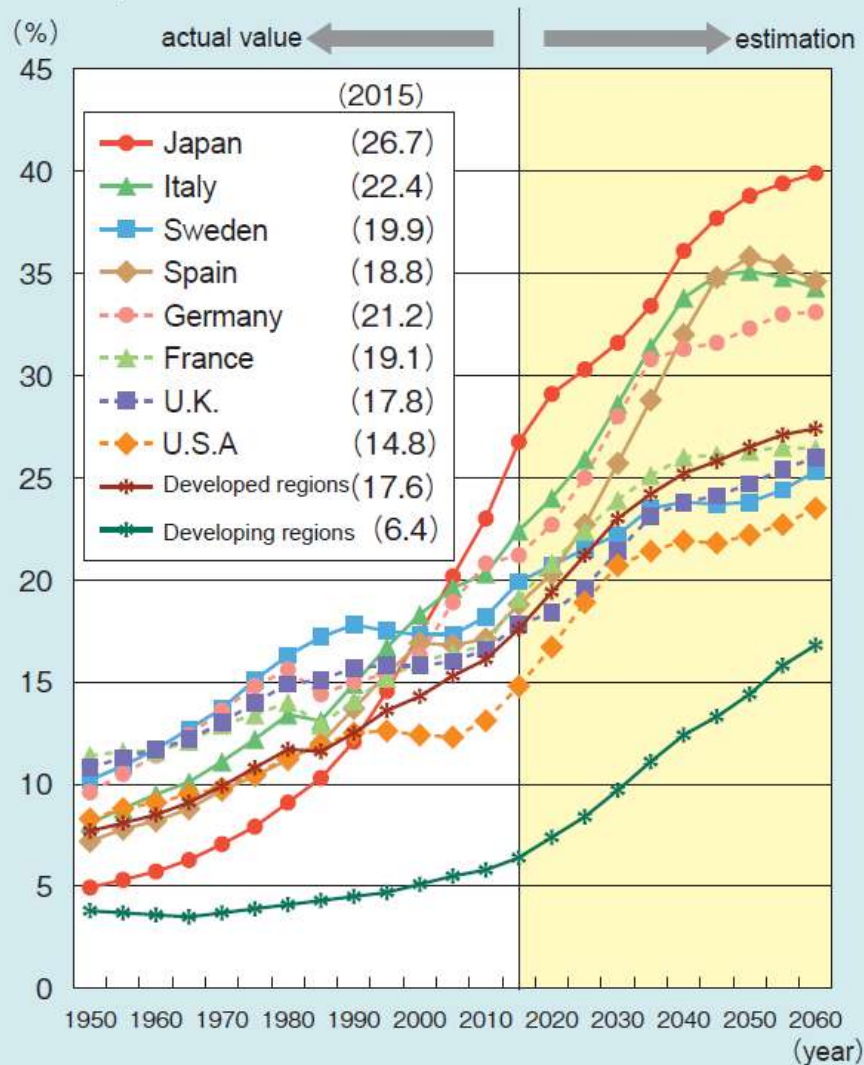
これらに鑑み、日本におけるソーシャルワークは以下の取り組みを重要視する。

- ソーシャルワークは、人々と環境とその相互作用する接点に働きかけ、日本に住むすべての人々の健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を実現し、ウェルビーイングを増進する。
- ソーシャルワークは、差別や抑圧の歴史を認識し、多様な文化を尊重した実践を展開しながら、平和を希求する。
- ソーシャルワークは、人権を尊重し、年齢、性、障がいの有無、宗教、国籍等にかかわらず、生活課題を有する人々がつながりを実感できる社会への変革と社会的包摂の実現に向けて関連する人々や組織と協働する。
- ソーシャルワークは、すべての人々が自己決定に基づく生活を送れるよう権利を擁護し、予防的な対応を含め、必要な支援が切れ目なく利用できるシステムを構築する。

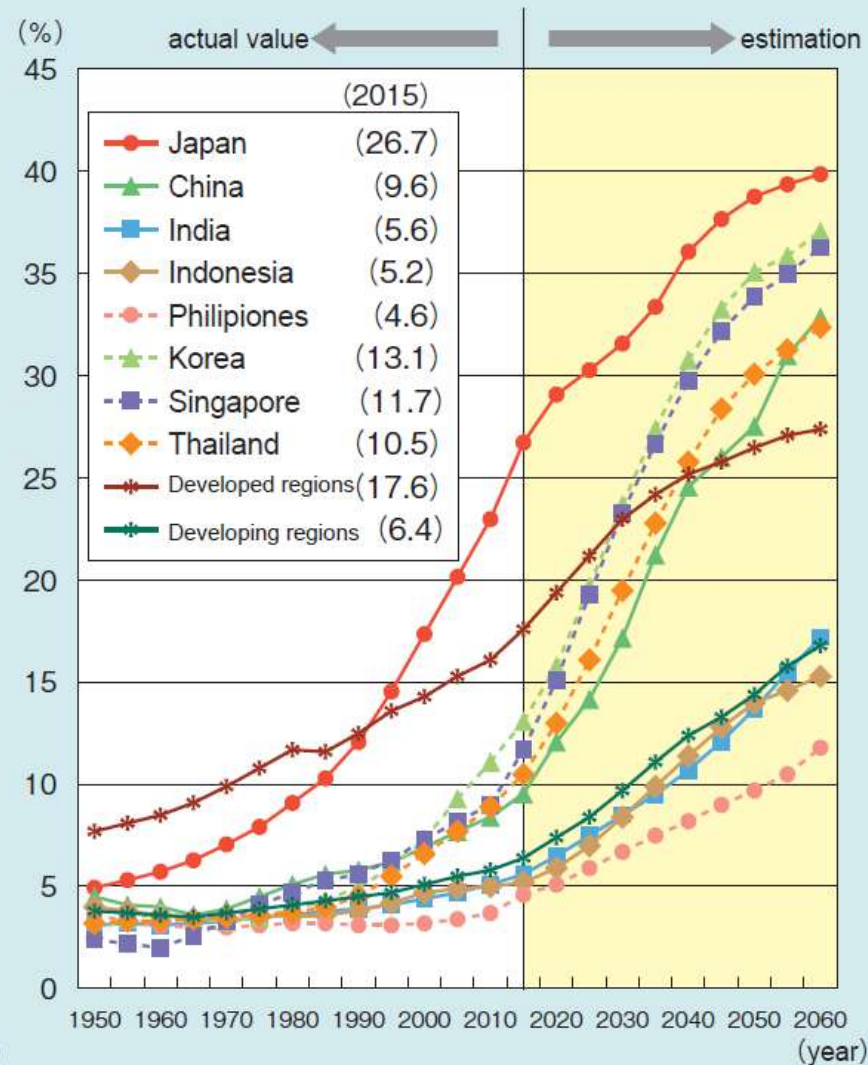
「日本における展開」は「グローバル定義」及び「アジア太平洋地域における展開」を継承し、とくに日本において強調すべき点をまとめたものである。

人口学的變化:高齡化の動向

1. Europe and America



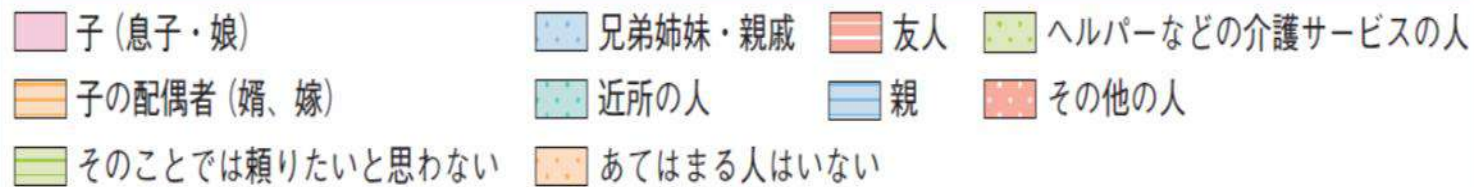
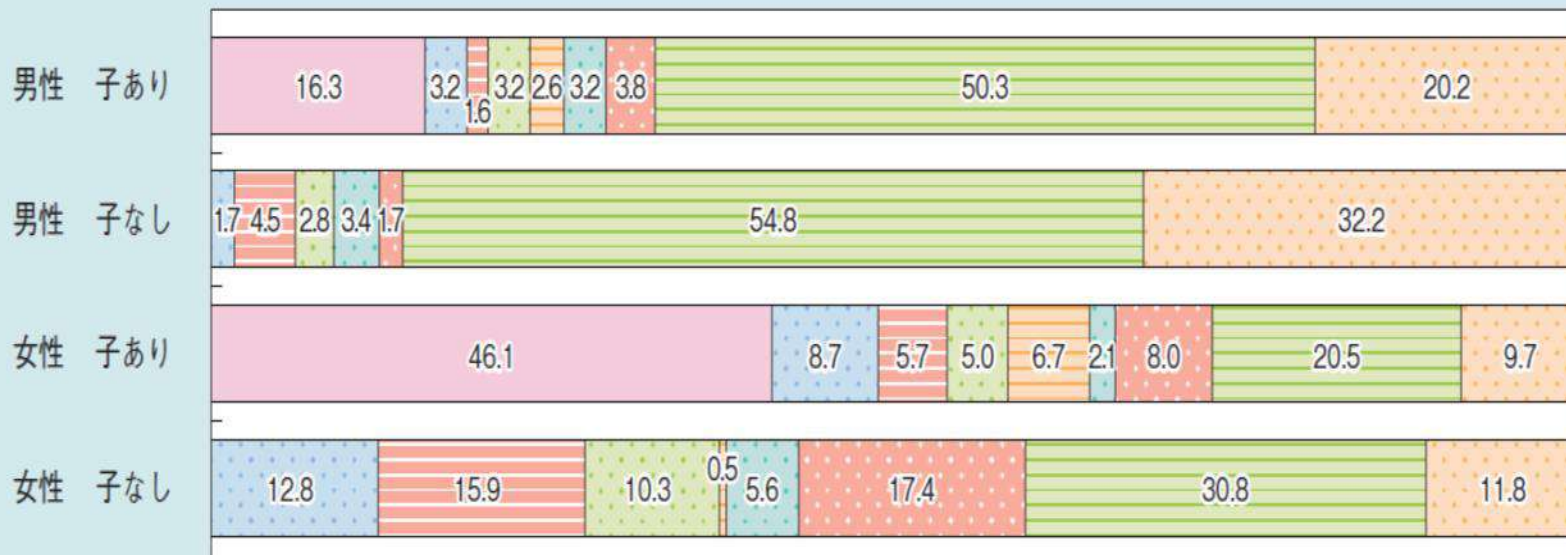
2. Asia



Source: UN World Population Prospects: The 2015 Revision.

Annual White Paper on Aging Society, Cabinet Office of Japan, 2018, p.8.

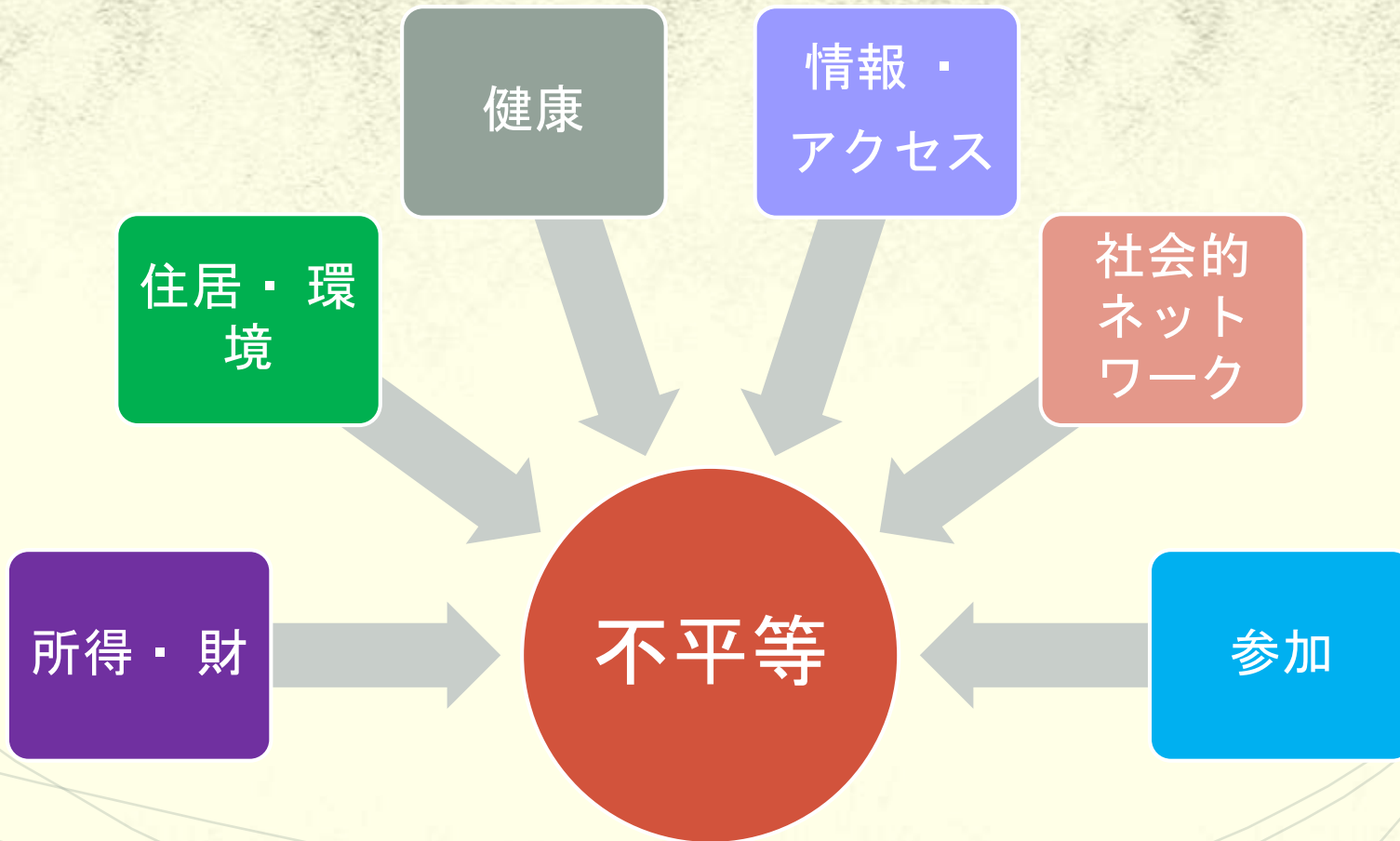
社会的孤立①～一人ぐらし高齢者の意識～ 「ちょっとした用事を頼める人はいいますか」



資料：内閣府「一人暮らし高齢者の意識に関する調査」(平成26年度)

(注) 対象は65歳以上の一人暮らしの男女

拡大する社会的な不平等： 連鎖する不利要因



社会的連帯は日本でどのように定義されているか？

- 「社会的連帯」は、社会政策および社会保障の文脈で使用されることが多く、社会福祉やソーシャルワークの領域では、「社会的つながり」という用語の方がよく用いられる
- 「社会的連帯」は、2000年の公的介護保険制度が導入される際、政府による政策理念の一つとして提唱された
 - 1) 家族介護から社会的介護へ
 - 2) ケアの民営化(準市場)
 - 3) 社会的連帯
 - 4) 在宅ケアの推進
 - 5) 利用者本位

「社会的連帯」は、リスクが普遍的（例えば高齢）で、相互性が見えやすく、保証される場合に実現しやすい

提言：社会的つながりが弱い人への支援のあり方について—社会福祉学の視点から—』(2018)

- 日本学術会議・社会学委員会・社会福祉学分会による提言
- 既存の高齢、障害、児童など属性に基づいて縦割りで体系化されている既存の社会福祉法制度やサービス提供体制の否定的な影響を指摘し、社会的孤立や制度の狭間に置かれた人を「丸ごと」支援することへの転換を求める

提言の概要 (2018)

(1) 短期的課題

① 包括的な相談支援体制の構築のために

ア 全国の自治体にコミュニティ・ソーシャルワーカーを配置すること（中期的には日常生活圏域に1人、全国で1万人を目標とする）。

イ 市町村社会福祉行政の縦割りの弊害を解消するための第一歩として、情報共有や機関連携を推進するための組織再編を行うこと。

ウ 縦割りで予算化されている事業予算を市町村が柔軟に再編成できるようにして、社会的つながりが弱い人の新たなニーズに対応できるようにすること。

エ コミュニティ・ソーシャルワーカーとしての専門性の向上を図るための養成教育および現任者研修プログラムの検討を行うこと。

② 社会的つながりを再構築するために

ア 地域住民への生涯教育として福祉教育を推進し、社会的つながりが弱い人が置かれている状況を理解し、そうした困難への気づきを促すこと。

イ 市町村において、住民参加、専門職参加、自治体職員参加による分野横断的な地域福祉計画の策定を義務化すること。

(2) 中期的課題

① 包括的な相談支援体制の構築のために

ア 各行政機関や公共サービス事業者が有する生活困難リスクに関する情報を市町村において集約化する体制を構築すること。

イ 既存の市町村社会福祉行政や保健所等の一部の機能を再編成し、専門的緊急支援が可能な体制（「福祉署」（仮称））を創設すること。

② 社会的つながりを再構築するために

ア 社会的つながりが弱い人が、適切な受援力を高めるための学校教育プログラムの開発や、市民への社会教育や広報を行うこと。

イ 差別を受けやすい人の社会参加を促進するために「合理的配慮」の対象を障害者に限らず拡大すること。

ウ 属性ごとの社会福祉法体系からニーズベースの社会福祉法体系へ転換すること。

日本における社会的連帯を阻害する要因は何か？

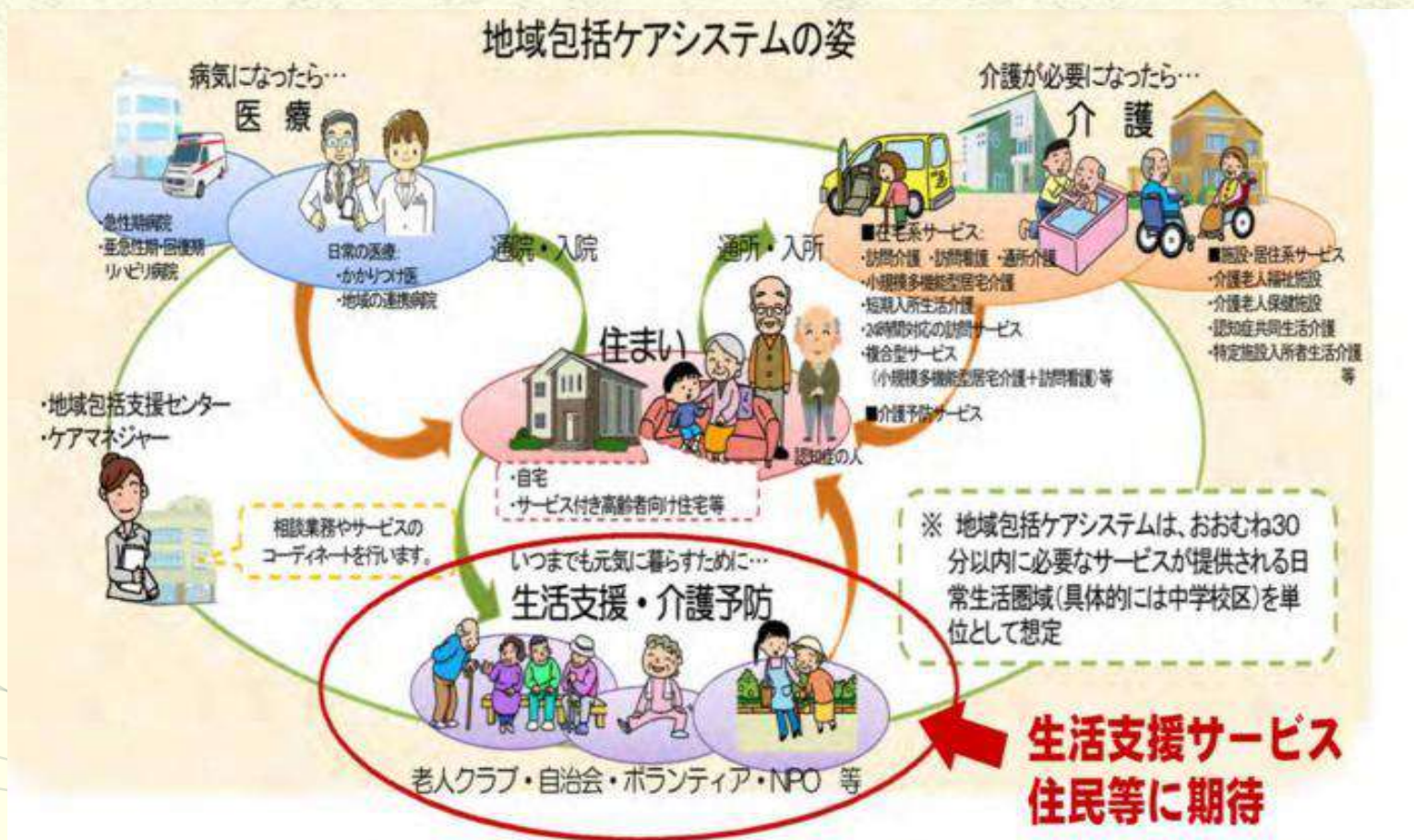
- 人口の高齢化, 都市化, 家族の居住形態や価値規範の変化によりもたらされる個人主義や社会的孤立
- 離婚、長期失業、不安定雇用などの社会的リスクの増大
- 社会的不平等、格差の拡大
- グローバリゼーションと外国人労働者の増大
- 新型コロナウイルスの拡大を防止するために提唱されている、ソーシャル・ディスタンスが求められる「新しい生活様式」

新型コロナウイルスがもたらす否定的な影響

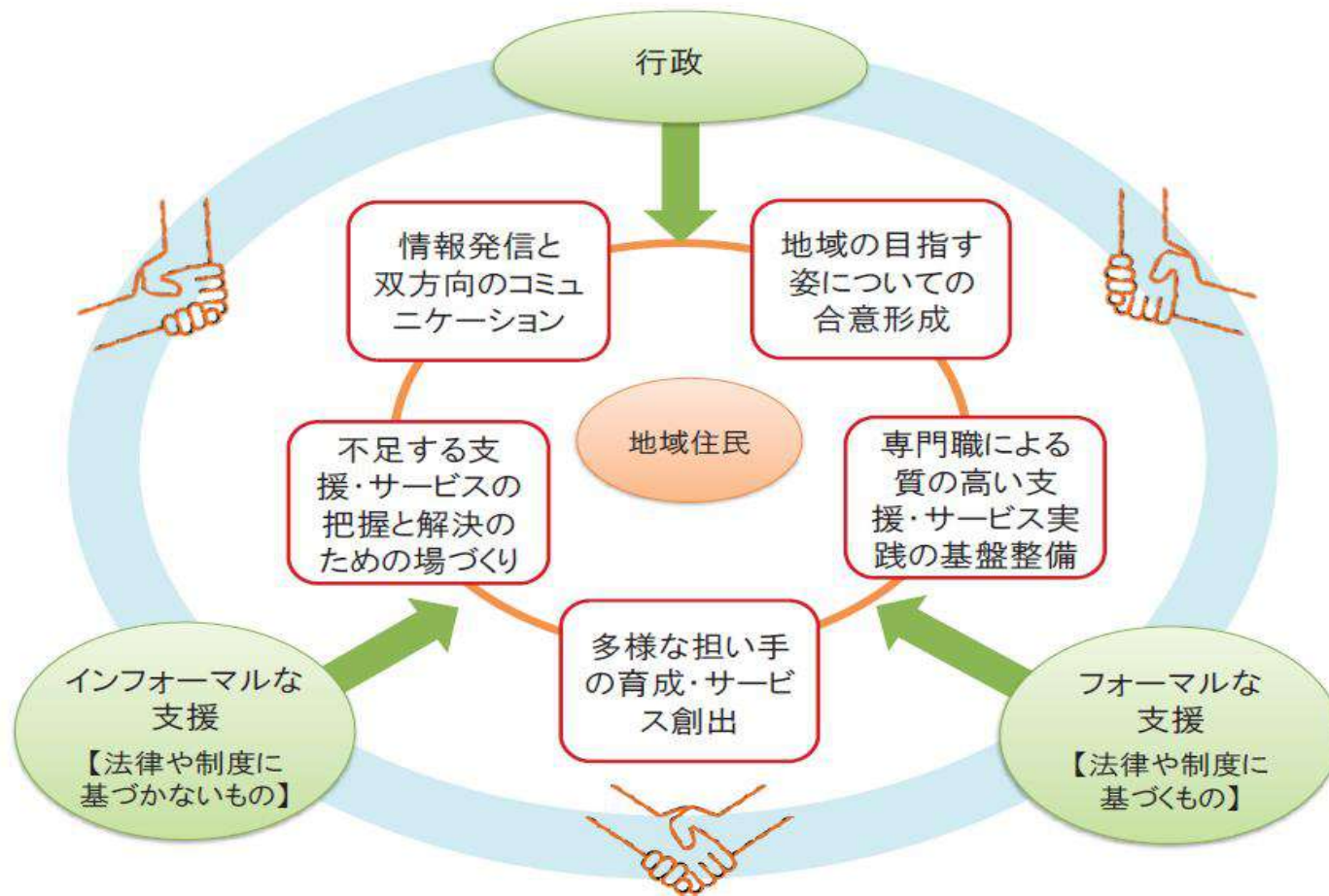
- 倒産や失業（特に中小、女性や非正規雇用者等）
- 家庭内暴力や虐待の増加
- 社会的活動やケアサービスの自粛による心身機能の低下
- 社会的孤立や生活不安の増大
- 特に女性や児童における自殺の増加
- 感染者やその家族、さらに保健医療関係者への差別や偏見
- エッセンシャルワーカー、特に社会福祉施設のケアワーカーやスタッフに対する不十分な防護具や感染防止教育
- 家族による介護負担の増大

社会的連帯を実現するソーシャルワーカー教育者の役割とは

市民を含め多様なサービス提供者やシステムをコーディネート・開発することにより、地域包括ケアシステムおよび地域共生社会を構築する



地域包括ケアシステム構築の要件



社会福祉法の改正(2020)

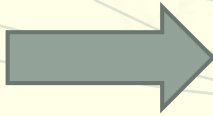
- 地域共生社会の構築にむけて、包括的な相談システムの構築
- 地方自治体において、対象分野超えた重層的な相談支援の整備に使用できる包括的な交付金の提供

< 3つの特性 >

- 1) 断らない支援
- 2) 社会的つながりや参加の支援
- 3) 地域づくりにむけた支援

新型コロナウイルスの感染拡大に対応する各種支援(一部)

- 雇用調整助成金
- 休業支援金・給付金
- 持続化給付金
- 一人親世帯への臨時特別給付金
- 緊急小口資金・総合支援資金
- 住宅確保給付金
- 高等教育の就学支援新制度



申請手続き等が煩雑なことから、十分に活用されていない、支援規模が不十分な可能性あり

求められる追加的・積極的なソーシャルワークの対応

- 差別の解消と人権擁護
- 社会的孤立や機能低下をICTや新たな技術（オンラインやSNSを含む）による代替的な方法で予防
- 情報弱者等に対するアウトリーチ
- 複合的な課題を抱える世帯への包括的支援
- 特に弱い立場におかれた人々へのアドボカシーとネットワークング
- 社会における社会福祉／人権教育の普及・啓発による社会的連帯の促進・実現

子ども・若者育成支援大綱の改正への提言

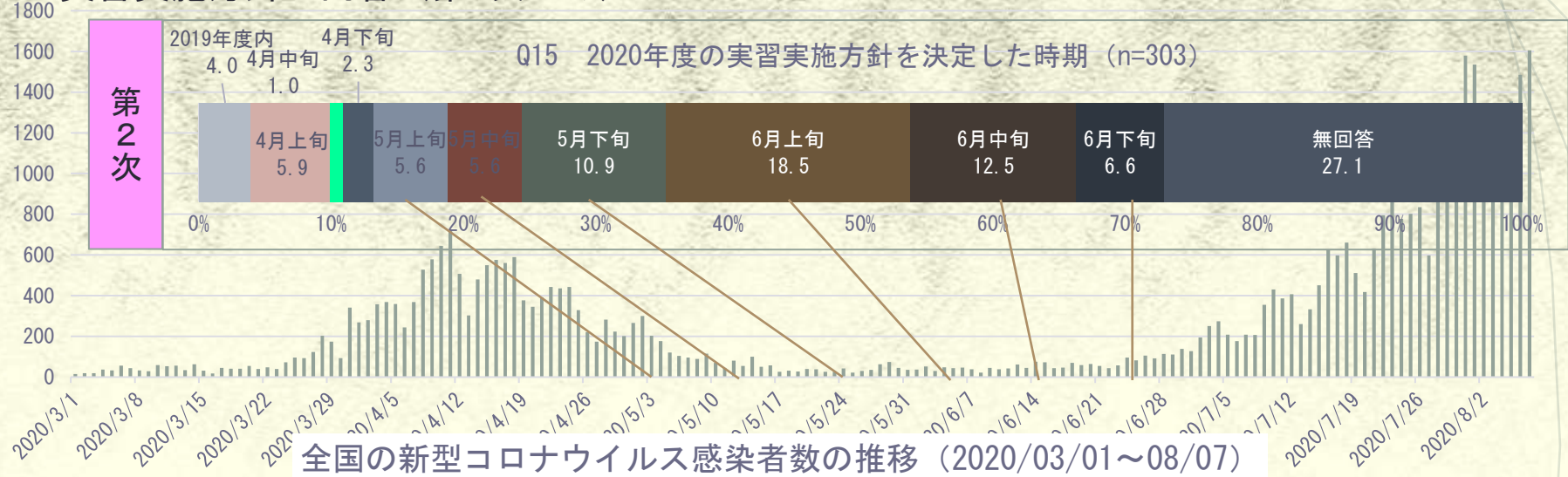
1. 新型コロナウイルス・パンデミックによる孤独／孤立への対応強化
2. 自殺を最重要課題であると捉える
3. 家族をケアするヤングケアラーへの支援を強化
4. デジタル化の普及・拡大とのバランスを図りながら、現実体験を豊かにする
5. SNSによる誹謗中傷対策を明記

★ 首相が孤独担当大臣を任命し、孤独問題対策室を設置(2021年、2月)。初回連絡調整会議(同、3月にて、ソーシャルメディアの活用、実態把握、NPO等の団体の連携支援等で合意。

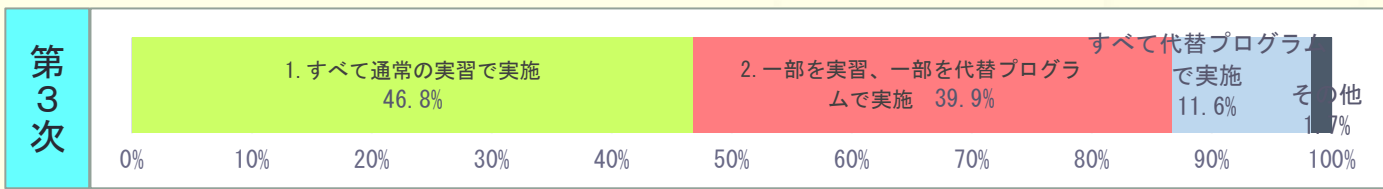
社会福祉士・精神保健福祉士の教育カリキュラムの改正 (2021)

- ミクローメゾマクロ・ソーシャルワークのさらなる統合の明確化により、包括的、重層的な支援体制の構築による地域共生社会構築を図る
- 包括的な支援が展開できるよう、幅広い知識が修得できるよう、選択科目を必修化
- 社会福祉士と精神保健福祉士の共通科目と専門科目を整理することにより、両者の位置づけを明確化
- 実習時間を増やし、少なくとも2か所以上での実習を行うことにより、学生が異なる機関やシステム間の連携や調整能力を養い、広い視野をもてるようにする

■ 実習実施方針の内容（第2次のみ）

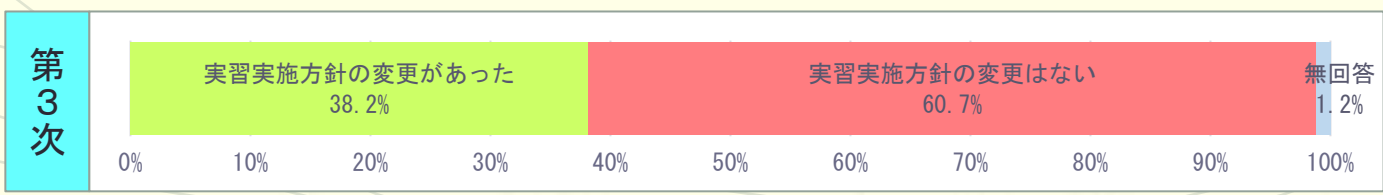


■ Q11：現時点の、課程の2020年度の実習科目の実施方針（予定を含む）



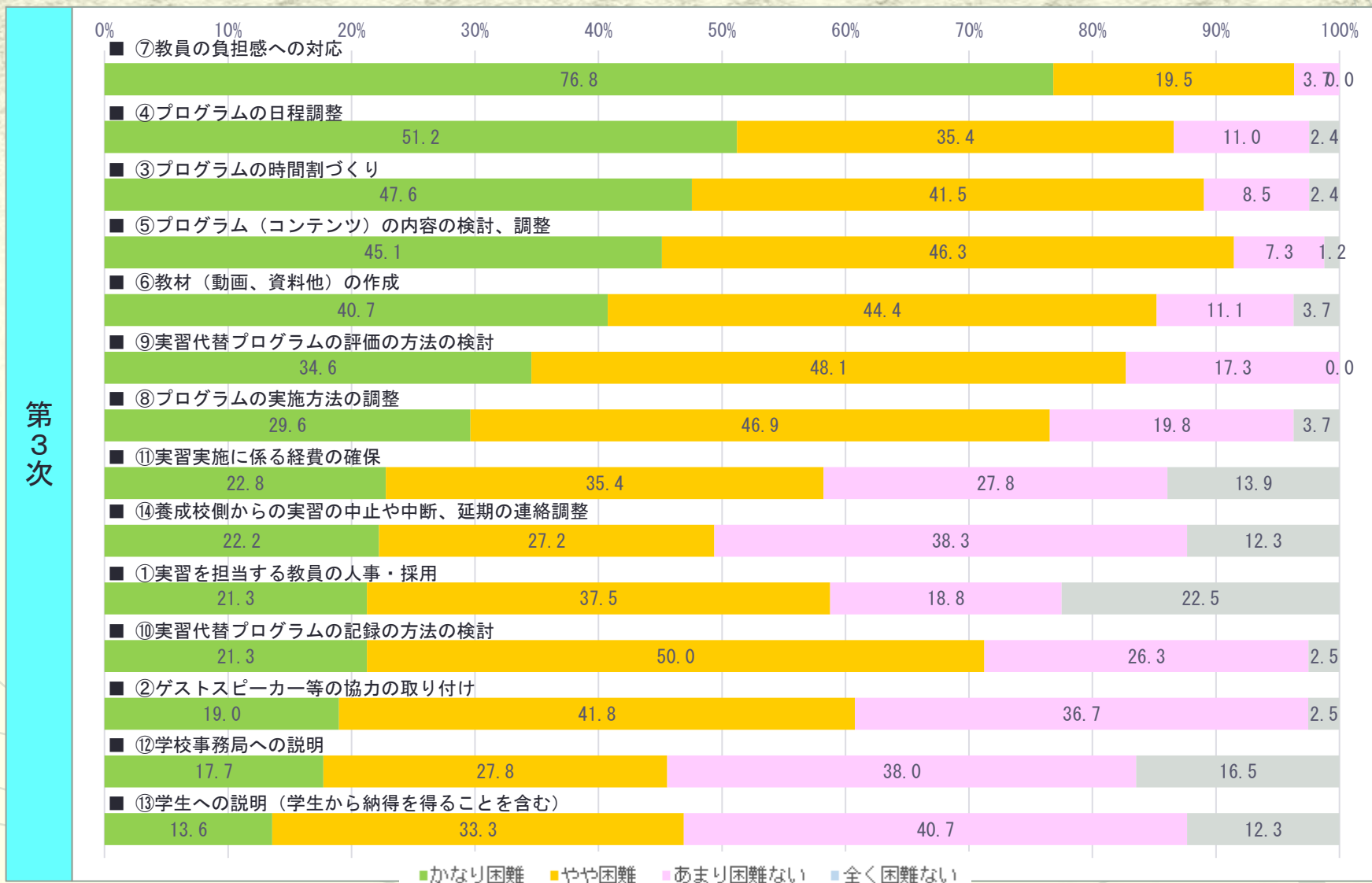
	度数	%
すべて通常の実習で実施	81	46.8%
一部を実習、一部を代替プログラムで実施	69	39.9%
すべて代替プログラムで実施	20	11.6%
その他	3	1.7%
合計	173	100.0%

■ Q13：7月以後、それ以前の実習実施方針から変更があったか[上のQのその他以外の回答者]



	度数	%
変更があった	66	38.2%
変更はない	105	60.7%
無回答	2	1.2%
合計	173	100.0%

■Q17：実習代替プログラムの実施準備や作成の際の困難点 [代替プログラムを実施する学校のみ]



第3次

パンデミックにおいてソーシャルワーク教育者は いかに社会的連帯を教え、実現するのか？

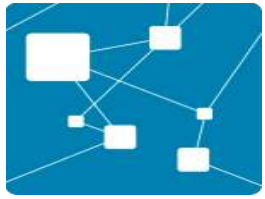
- 学問的にも個人的にも、ソーシャルワークにおける社会的連帯の意味と必要性について探求する。
- 危機的状况における不安を共有し、社会的連帯によって、個人的、専門職としてどう対処するか学ぶ機会を提供する。
- ソーシャルワーク実践と教育の双方で、様々なデジタル・ツールを利用し、評価する
- 危機とリスクマネジメントの介入方法を学ぶ。
- パンデミックにおける脆弱な人々のニーズを分析し、必要なソーシャルワークの対応を考える。
- 地域における福祉（人権）教育を行う。
- 利用者、家族、ソーシャルワーカー、ケアワーカーに対して、適切な感染予防教育を提供する。
- ローカルとグローバルな影響要因の相互関係を分析し、グローバル・ソーシャルワークの必要性を強調する。



中国における
グローバルアジェンダと社会連帯

沈 黎

上海師範大学



- 沈 黎 (博士)
- 上海師範大学准教授
- 中国ソーシャルワーク教育連盟 (CASWE) スーパービジョン委員会副委員長兼事務局長

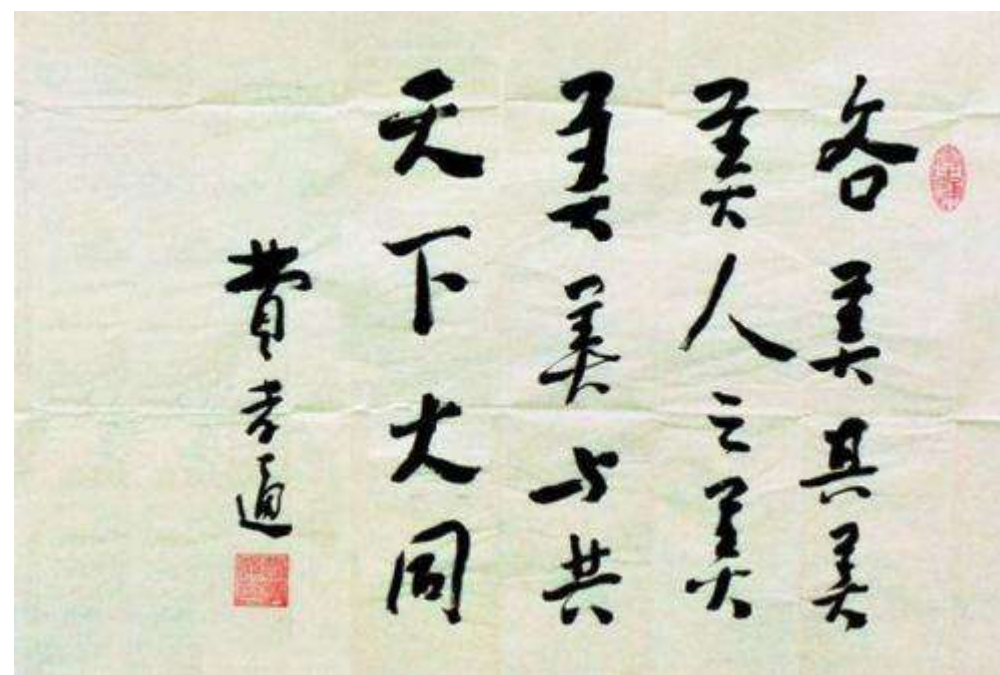


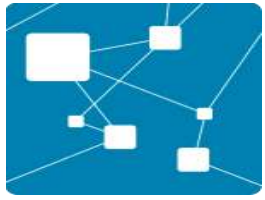


1. 中国における社会連帯

- 各美其美，美人之美，美美与共，天下大同——費孝通教授（1910-2005）
- 自国の文化・価値観と同様に他国の文化・価値観を認めることにより、世界に調和が生まれる。誰もが自らの文化・価値観を大事にし、他者の文化・価値観を尊重すれば、調和のとれた世界が実現する。

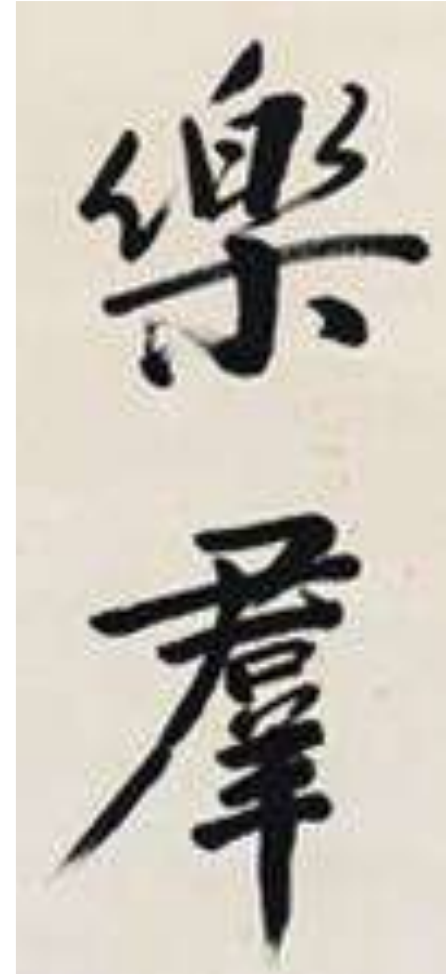
費孝通（1910.11.2-2005.4.24）
著名社会学家、人类学家、民族学家、社会活动家，
中国社会学和人类学的奠基人之一，
中国民主同盟的卓越领导人

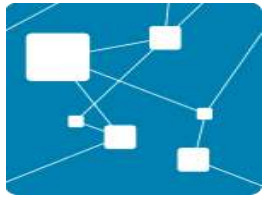




1. 中国における社会連帯

- 中国の歴史の中で社会連帯を最も適切に表現する言葉
- 社会連帯: 乐群
- 友人と共に集団で生きることの優先





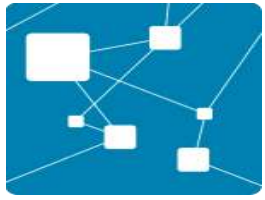
1. 中国における社会連帯

- 社会連帯の哲学：全ては公のため

公為下天

- 社会連帯の基盤：調和が貴重

貴為和



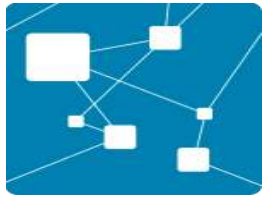
1. 中国における社会連帯

- 社会連帯の原則：和して同ぜず

和而不同

- 社会連帯の手段：博愛と互恵





1. 中国における社会連帯

- 社会連帯の理念：世界は調和のとれた世界であるべき





2. 中国における社会連帯のを阻害要因

- 経済開発に対して社会開発の遅れ
- 不均等な経済発展
- 人間と自然の関係の不均衡



3. コロナ禍における活動

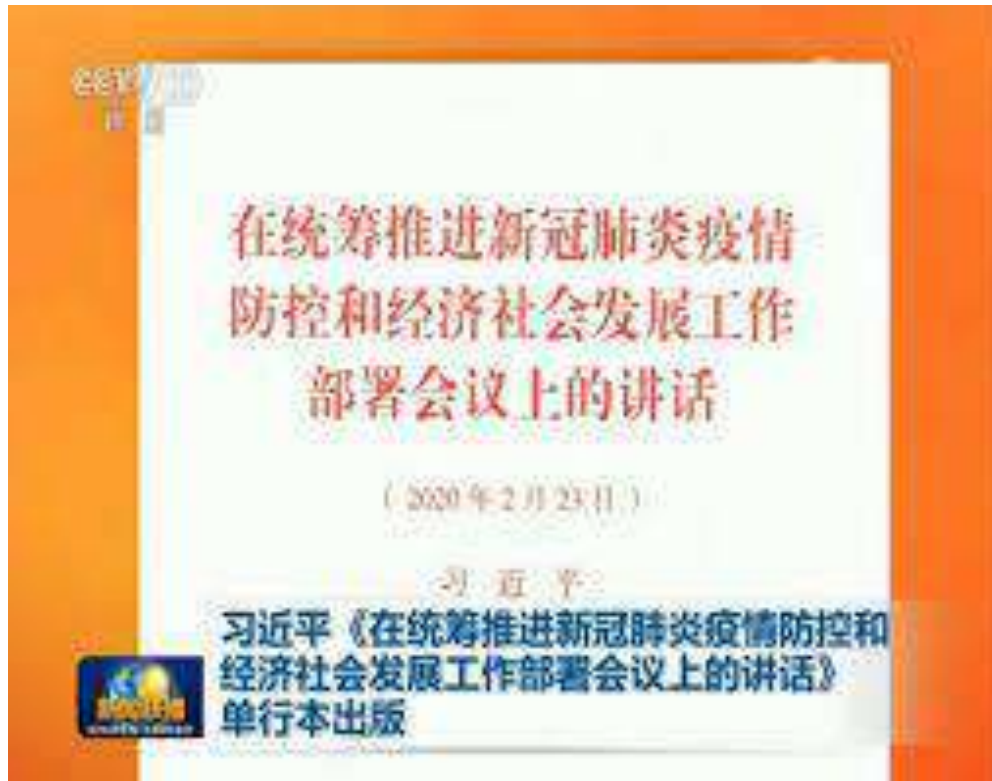
- CASWE（中国ソーシャルワーク教育連盟）コロナ禍対応ワーキンググループ

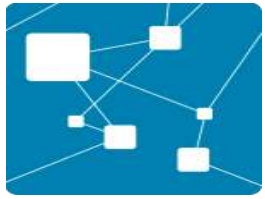




3. コロナ禍における活動

- ソーシャルワーカーは、専門家としての強みを活かし、新型コロナウイルス感染症の予防と管理に尽くすすべきである。
 - 習近平（2020年2月23日）





3. コロナ禍における活動

- ソーシャルワーク・サービス・ガイドライン





3. コロナ禍における活動

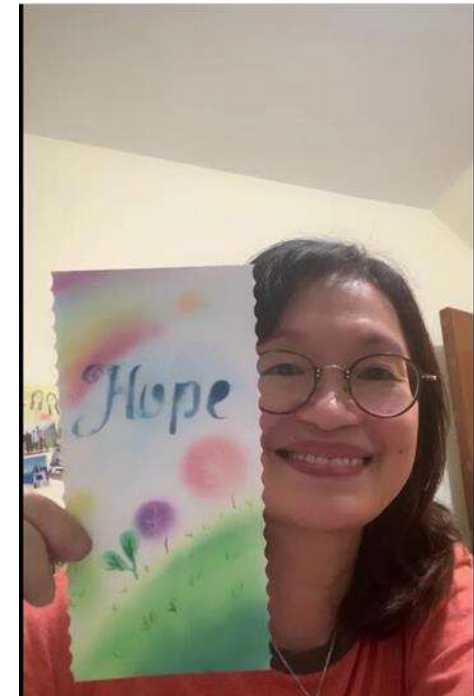
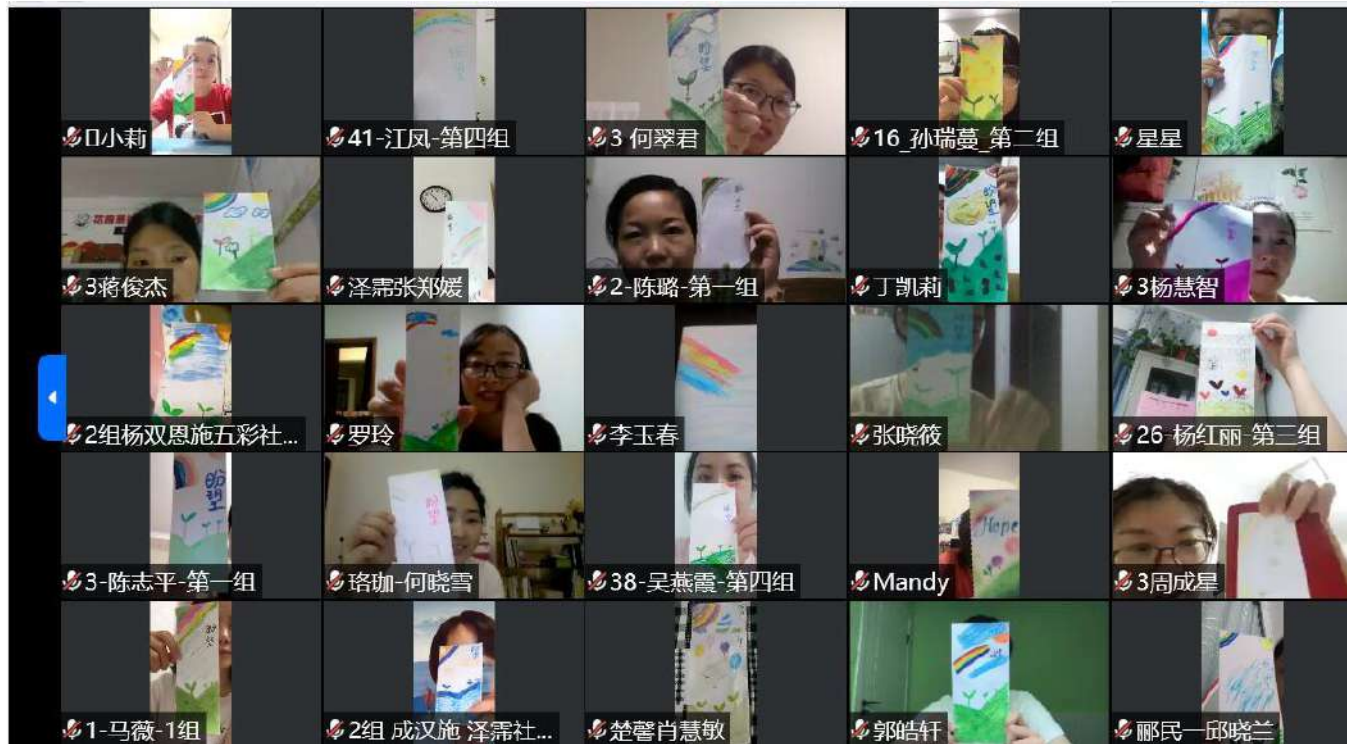
- オンラインのソーシャルワーク講座





3. コロナ禍における活動

- オンラインのソーシャルワーク講座





3. コロナ禍における活動

- オンラインのソーシャルワーク・サービス：若者向けサービス





3. コロナ禍における活動

- コロナ禍における活動：入院時サービス



临时妈妈——无微不至



阳光天使——心理援助



视频连线——家庭支持



每日唤醒——促进康复



陪伴朗诵——打动人心



服装作画——愉悦心情



3. コロナ禍における活動

- コロナ禍における活動：オンラインのスーパービジョン

“不在场”的临在
武汉“集中隔离点—社区”社会工作与心理援助
督导工作研讨会

会议时间
2020年4月19日（周日）9:30-11:30

会议地址


腾讯会议 ID: 652 056 390

会议核心议题
武汉集中隔离点社会工作实践经验
武汉“集中隔离点—社区”督导工作实践
线上社会工作督导模式的学术反思

联合主办单位
中国社会工作教育协会武汉“集中隔离点—社区”督导工作组
武汉市社会工作联合会
北京大学-香港理工大学中国社会工作研究中心

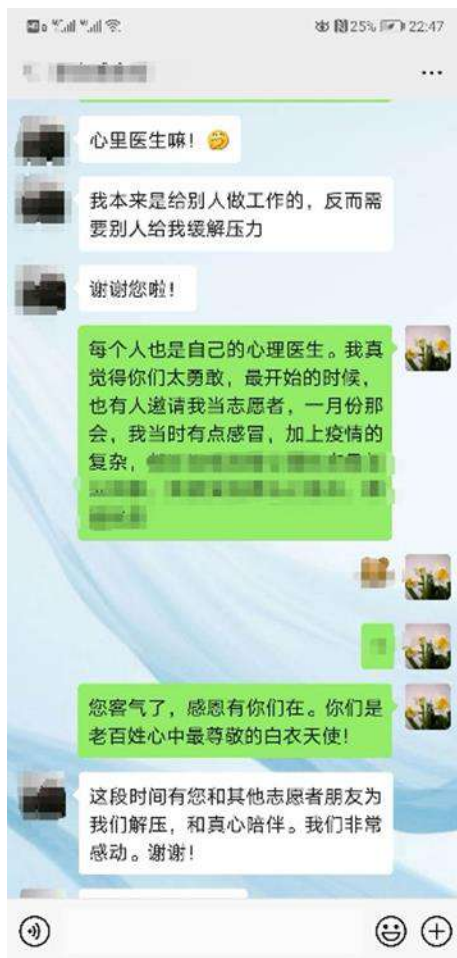
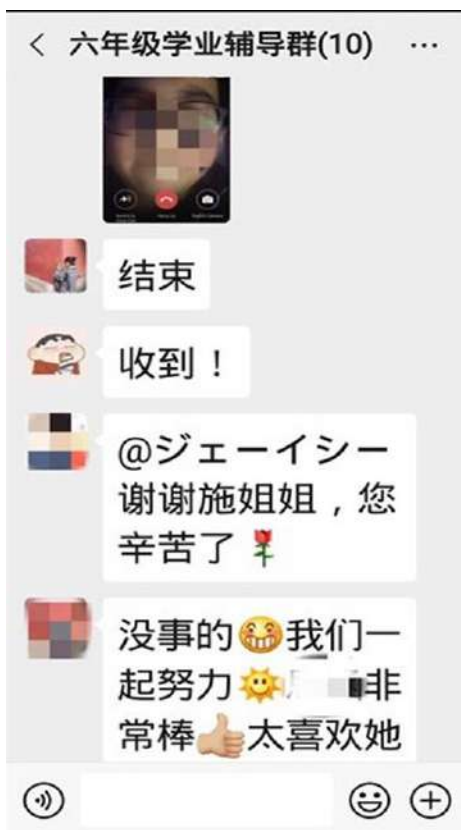






3. コロナ禍における活動

- コロナ禍における活動：コミュニティ・サービス





3. コロナ禍における活動

- 災害後復興
 - 心の回復
 - コミュニティの復活

COME ON WUHAN

第二期 微笑明天
『一路同行』补助计划

项目介绍
本项目由微笑明天慈善基金会提供资金支持，目标是参与“一路同行”计划的困难家庭或个人提供一次性1000元的经济补助。

申请对象
因疫情失去亲人的特困家庭且为“一路同行”计划的成员

报名日期
9月25日-10月7日

名额有限，先到先得，欢迎垂询

微笑明天慈善基金会 Future Smile Charitable Foundation GCRT

扫码报名

微笑明天慈善基金会 GCRT

花卉欣赏、田园养生度假、美丽乡村体验... 您在咫尺的周末假生活，身未远，心已达。

浪漫武汉 花慢人生
微笑伴行“一路同行”
秋游活动

活动地点
武汉市蔡甸区天星村1号花博汇

活动时间
2020年10月25日（本周日）

招募说明
招募人数：20人（可携带家属）
报名截止时间：10月22日晚12点

微信扫一扫入群报名，名额有限，先到先得~
活动全程免费，且有摄影师随行提供服务

扫码报名

我的失去 49天
与思念

一本哀伤中的自我心灵陪伴手册

对不起
谢谢你
我爱你
再见

记录我和_____的告别